

平成 29 年度における関係団体の取組状況

1 青森県食生活改善推進員連絡協議会

| 活 動 内 容 | |
|-----------|--|
| 1 | <p>おやこの食育教室 「食育5つの力」の中から「食べ物をえらぶ力」「食べ物の味がわかる力」をテーマに、料理講習会と減塩指導。</p> <p>2 男性料理講習会 生活習慣病予防や減塩、食育をテーマに調理実習、講話、健康相談を実施。</p> <p>3 高齢者の低栄養、ロコモ予防教室 “延ばそう健康寿命”をテーマに、高齢期の食事の調理講習会・講話を開催。乳製品を取り入れ、「カルシウム不足」改善。</p> <p>4 食育推進事業 地域住民、一般成人、中高生を対象に、望ましい食習慣・知識などを普及啓発。</p> <p>5 だし活事業（だし活伝道師育成研修会） 県産品のだし商品の良さを理解し、今後の活用につなげ、又、減塩普及啓発につなげる。</p> <p>6 食事バランスガイド推進事業 食事バランスガイドの普及浸透を図るために、調理実習・講話・伝達調理を実施。</p> <p>7 乳幼児検診等における「だし活」伝道業務（県） 子供のころからのうす味定着・減普及。</p> <p>8 飲食店麺類塩分改善事業 「健康で長生きな青森県」を目指し、県内の食環境を調べる。</p> <p>9 やさしい在宅介護教室 元気で長寿を全うするため、自分でできる在宅介護食を知り、教室を開催する。</p> <p>10 生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業 世代別にみる生活習慣病予防のための講話、調理実習。</p> <p>11 だし活伝道師ステップアップ研修会 県産の活用、減塩推進、家庭、地域への定着へ向けての研修。</p> |
| 事業名 ① | 家庭訪問による減塩普及活動 |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月～ |
| 場 所 | 県内 5,000 軒目標 |
| 活動内容・参加者等 | 若年世代への家庭訪問を実施し、各家庭のみそ汁塩分チェックと野菜あと1皿（70g）の必要性をリーフレットにより普及に努める。 |
| 事業名 ② | だし活伝道師育成研修会（県委託） |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月～11 月 |
| 場 所 | 県内 6 か所 |
| 活動内容・参加者等 | 「だし」の良さを理解し、今後の活用につなげ、又、減塩普及啓発につなげ、家庭や地域に浸透定着することを目指す人の育成。 ※保健協力員、栄養士会、食育サポーター、スーパー量販店の方も対象。 |

| | |
|--------------------|--|
| 事業名 ③ | 生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業 |
| 期 日 | 平成 29 年 9 月～ |
| 場 所 | 県内 13 か所、30×13=390 名 |
| 活動内容・参加者等 | 規則正しく、バランス良い食習慣の定着を図る目的で、ミニ講話と調理実習を実施。 ※高校生を対象。 |
| 事業名 ④ | 生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業（成人・高齢世代） |
| 期 日 | 平成 29 年 9 月～ |
| 場 所 | 県内 12 か所、30×12=360 名 |
| 活動内容・参加者等 | 生活習慣を見直し、健康な体づくり・規則正しい食生活の定着を図る目的で、ミニ講話と調理実習を実施。 ※20 才～70 才代後半以上の男女を対象。 |
| 事業名 ⑤ | だし活伝道師ステップアップ研修会 |
| 期 日 | 平成 29 年 6 月～9 月 |
| 場 所 | 青森県内 8 か所 |
| 活動内容・参加者等 | 講義、調理実習、試食を通して、今後の体制づくり、家庭への「だし活」の定着。 ※食生活改善推進員を対象。 |
| 事業名 ⑥ | 乳幼児健診における「だし活」伝道活動 |
| 期 日 | 平成 29 年 5 月～平成 30 年 3 月 |
| 場 所 | 青森県内 40 市町村 140 回実施 |
| 活動内容・参加者等 | 3 才児健診を中心とした乳幼児健診に同行した保護者や参加者に対し、「だし活」料理・みそ汁の試食提供する。 |
| 事業名 ⑦ | 飲食店麺類塩分改善事業 |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月～平成 30 年 1 月末 |
| 場 所 | 青森県内飲食店 100 店舗 |
| 活動内容・参加者等 | 麺類（ラーメン、うどん、そば）を提供する飲食店を訪問し、スープの重量と塩分とを計測する。 |
| 事業名 ⑧ | やさしい介護教室 |
| 期 日 | 平成 29 年 11 月～平成 30 年 1 月 |
| 場 所 | 青森県内 5 ヶ所 30×5=150 名 |
| 活動内容・参加者等 | 自分でできる介護食を知り、作り方を学ぶことを目的に教室を開催する。講習会、調理実習、脳体操実施。 ※食生活改善推進員及び一般住民を対象。 |
| 取り組みの具体的な手法や特徴的なこと | <ul style="list-style-type: none"> ・事業に協力してもらうため、学校、団体、イベント、飲食店など、直接交渉して、事業説明、主旨説明をして、理解してもらう。 ・試食提供時、食物アレルギーを必ず確認する。 ・若者、働き世代は、託児所を設けて対処。 ・壮年、高齢世代は、老人クラブなどに交渉。 |

2 青森県生活協同組合連合会

| | |
|---|--|
| 事業名 ① | すこしお調理教室 |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月 27 日 (金) 青森市・アピオあおもり (17 名) |
| 場 所 | 平成 29 年 11 月 10 日 (金) 青森市・西部市民センター (16 名) |
| 活動内容・ 参加者等 | 調理師と栄養士が講師になり、実際の調理実習を通して減塩について楽しく学び、参加者の食生活の改善と健康づくりへの意識の高まりを広げる活動として実施した。 |
| 事業名 ② | 健やか食ピング |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月 4 日 (月) 14:00~15:00 |
| 場 所 | 弘前市 コープあおもり松原店 コープカフェ (12 名) |
| 活動内容・ 参加者等 | <ul style="list-style-type: none"> ・東北女子大学との共同企画として、健康な食生活のための「買い方」について楽しく学ぶ企画として実施。 ・健康栄養学科の先生方と学生による講話と、実際のお買いもの体験へのアドバイスをいただいた。 |
| 事業名 ③ | 食と健康講演会「いつ食べる 何を食べるか 食を知る」 |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月 13 日 (水) 青森市 県民福祉プラザ (参加 93 人) |
| 場 所 | 平成 30 年 1 月 22 日 (月) 弘前市 弘前文化センター (〃 160 人) 平成 30 年 2 月 14 日 (水) おいらせ町 みなくる館 平成 30 年 2 月 15 日 (木) 八戸市 八戸市公民館 平成 30 年 2 月 16 日 (金) 五所川原市 オルテンシア |
| 活動内容・ 参加者等 | 東北女子大健康栄養学科との共催で、一般市民向けに健康と食についての確かな情報を伝えることにより短命県返上に寄与することを目的として、県内 5 市で開催。 |
| 取組の具体的 手法や特徴的 なこと (他団 体との連携な ど) | <ul style="list-style-type: none"> ・青森県および開催地自治体・教育委員会、青森県食生活改善推進員連絡協議会、マスコミ等の後援をいただき、広く広報していただいた。 ・9 月~11 月までの健康チャレンジの取組みの推進企画として位置づけ、県内 5 市での開催とした。 ・食生活改善推進員のみなさんが各会場に参加いただき非常に心強く、今後の連携をぜひ強めたい。 |
| 備 考 | 次年度は開催場所をさらに広げていく方向で検討する。 |

3 青森県生活研究グループ連絡協議会

| | |
|------------------------------------|---|
| 活 動 内 容 | |
| 各地区生活研究グループ連絡協議会が企画し、以下の取組みが実施された。 | |
| 事業名 ① | 「津軽の味っこ」伝承料理講習会 (弘前地区連) |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月 24 日 (日) |
| 場 所 | 弘前市 清水交流センター 調理室 |
| 活動内容・ 参加者等 | <p>○内 容：郷土料理 (5 品) の調理実習、参加者との交流</p> <p>○参加者：弘前市一般市民 33 名、生活改善グループ員 9 名、 中南県民局地域農林水産部 1 名 計 43 名</p> <p>郷土料理を若者や子ども達の嗜好にも合うように味付けを工夫し、食の文化伝承財として伝承していくために、平成 24 年度から開催しており、平成 26 年 3 月には「津軽の味っこ II (郷土料理本)」を発行している。</p> |

| | |
|-----------|--|
| 事業名 ② | 東北栄養専門学校生のための郷土料理伝承会（黒石地区連） |
| 期 日 | 平成30年1月20日（土） |
| 場 所 | 弘前市 東北栄養専門学校 調理室 |
| 活動内容・参加者等 | ○内 容：郷土料理（5品）の実習、意見交換 ○参加者：1年生35名・教職員2名、生活改善グループ員10名、 中南县民局地域農林水産部1名 計48名 平成20年度から年1回実施している（今年度で10回目）。郷土料理メニューは学校からの意見を取り入れながらグループ員が検討し、事前に技術向上研修を行い伝承会に臨んでいる。 |
| 事業名 ③ | 東北女子短期大学の講義「高齢者と生活」における郷土料理の伝承活動（平賀地区連） |
| 期 日 | 平成29年7月25日（火） |
| 場 所 | 東北女子短期大学 |
| 活動内容・参加者等 | ○内 容：・津軽地域に伝わる料理の実習（しとぎもち、なすのしそ巻き、ほうれん草と菊、イカのくるみ味噌和え、みずの和え物） ・学生との交流 ○参加者：生活科学生8名、教員1名、生活改善グループ員4名、 中南县民局地域農林水産部1名 合計14名 地区連で作成した「和え物レシピ（H22作成）」に掲載している料理を取り入れ、料理の伝承と合わせて普段使われなくなった調理器具「すり鉢」でのあえ衣づくり体験も実施している。 |
| 事業名 ④ | 平川市立平賀東中学校における郷土料理伝承会（平賀地区連） |
| 期 日 | 平成30年2月1日（木） |
| 場 所 | 平川市立平賀東中学校 |
| 活動内容・参加者等 | ○内 容：津軽地域に伝わる料理の実習（しとぎもち、ほうれん草と菊、 イカのくるみ味噌和え） ○参加者：2年生60名（2クラス）、生活改善グループ員6名、中南县民局地域農林水産部1名 合計67名 地区連で作成した「和え物レシピ（H22作成）」に掲載している料理を取り入れ、料理の伝承と合わせて普段使われなくなった調理器具「すり鉢」でのあえ衣づくり体験も実施している。 |
| 事業名 ⑤ | 手作りの味と技を楽しむ会（鱈ヶ沢地区連） |
| 期 日 | 平成29年9月13日（水） |
| 場 所 | 鱈ヶ沢町総合保健福祉センター |
| 活動内容・参加者等 | ○内 容：西北地域の郷土料理「すしこ」（2種類）と「赤じそドリンク」の実習及び 意見交換 ○講 師：鱈ヶ沢地区連会員 ○参加者：一般消費者25名、地区連会員17名、支援機関1名 計43名 |

| | |
|----------------------|--|
| 事業名 ⑥ | 奥津軽の味・技交流会（金木地区連） |
| 期 日 | 平成 30 年 1 月 12 日（金） |
| 場 所 | 中泊町中央公民館 |
| 活動内容・参加者等 | ○内 容：「農家や漁家ならではの食の知恵を学ぼう！」をテーマに、農家と漁家の自慢料理の実習（4 種類）と実演（2 種類）、地区連プロジェクト活動の紹介、女性の活躍事例の報告 ○講 師：漁協女性部員、金木地区連会員 ○参加者：旧金木地区の女性組織・団体（J A 女性部、漁協女性部、V i C・ウーマンの会など）27 名、地区連会員 18 名、支援機関 7 名 計 52 名 |
| 取組の具体的なこと（他団体との連携など） | 金木・鯉ヶ沢両地区連ではグループ員や地域の女性団体の会員が講師となり、調理実習を通して、郷土料理の伝承や地産地消を推進している。 鯉ヶ沢地区連は前年度の参加者からの要望を基にメニューを決め、町広報で参加者を募集した。 金木地区連は地域の女性団体と連携してメニューを決め、各女性団体から参加者を募集した。平成 29 年度西北地域食育実践向上事業により実施。 |
| 事業名 ⑦ | 女性農業者の活躍応援事業（かみきた農と暮らしの研究会員による「かみきた健康づくり見直し隊」プロジェクト）第 1・2 回食育講座（かみきた地区連） |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月 6 日（水）、12 月 9 日（土） |
| 場 所 | 東北町中央公民館（東北町） |
| 活動内容・参加者等 | ○内容：体を温める発酵食品を利用した料理づくり ○講師：東北町特産品販売促進協議会員 ○参加者：東北町住民等 延べ 32 人 |
| 事業名 ⑧ | 第 3 回食育講座（かみきた地区連） |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月 20 日（水） |
| 場 所 | 六戸町就業支援センター（六戸町） |
| 活動内容・参加者等 | ○内容：伝統的な発酵食品イカ寿司づくり ○講師：うすゆきグループ員 ○参加者：六戸町住民等 13 人 |
| 事業名 ⑨ | 第 4 回食育講座（かみきた地区連） |
| 期 日 | 平成 30 年 1 月 11 日（水） |
| 場 所 | 一本松公民館（十和田市） |
| 活動内容・参加者等 | ○内容：地場野菜と発酵食品を利用した次世代に伝えたい料理 ○講師：一本松ひまわりグループ員 ○参加者：十和田市一本松地区住民等 24 人 |
| 事業名 ⑩ | 第 5 回食育講座（かみきた地区連） |
| 期 日 | 平成 30 年 1 月 18 日（木） |
| 場 所 | 夏間木地区会館（十和田市） |
| 活動内容・参加者等 | ○内容：次世代に伝えたい美味しい手打ちそばの作り方 ○講師：切田わくわくグループ員 ○参加者：十和田市切田地区住民等 8 人 |

| | |
|-----------------------------|--|
| 事業名 ⑪ | 第6回食育講座（かみきた地区連） |
| 期 日 | 平成30年1月24日（水） |
| 場 所 | 相坂上講会堂（十和田市） |
| 活動内容・参加者等 | ○内容：次世代に伝えたい美味しいだんごの作り方 ○講師：なかよしグループ員 ○参加者：十和田市相坂地区住民等 16人 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと（他団体との連携など） | 上北地区連では、食育活動のため、県事業を活用し、会員が講師となり、子供から高齢者まで幅広い世代を対象に、調理実習を行った。 |

4 八戸水産加工業協同組合連合会

| | |
|--------------|--|
| 事業名 ① | 第4回ご当地イカ料理コンテスト |
| 期 日 | 平成29年8月10日 |
| 場 所 | 八戸ポータルミュージアムはっち |
| 活動内容 参加者等 | 八戸ならではの「イカ」料理を発掘し、PRすることで、水揚げ日本一を誇るイカの生産振興および消費拡大のほか、日本一のイカの産地としての知名度向上を図る。応募資格は小学生以上とすることで、地元の食材を活用した食育に貢献。23作品を試食審査して最優秀賞を決定。 |
| 事業名 ② | 第11回八戸前沖さばアイデア料理コンテスト |
| 期 日 | 平成29年11月5日 |
| 場 所 | 八食センター催事場 |
| 活動内容 参加者等 | 今回のテーマを「八戸発 プロも驚く、国際色豊かな‘新’八戸前沖さば料理」と銘打って開催。65の応募作品の中から20作品を選考してグランプリを決定。11月中を「八戸前沖さばまつり」期間とし、①秋の鯖フェス、②八戸鯖コンボ、③八戸魚市場見学会、④加工場見学&鯖捌き体験、⑤ソウルフード料理教室等9つのイベントを開催。楽しみながら鯖による食育普及を図る。 |
| 備 考 | 全日本さば連合会が組織する「鯖サミット」を来年予算措置して八戸で開催できないか検討。 |

5 むつ市

| 活 動 内 容 | |
|-------------------------|--|
| 地域の魅力再発見食育推進事業を活用した食育活動 | |
| 事業名 ① | むつ市食育推進会議 |
| 期 日 | 1回目：平成29年7月31日・2回目：平成30年1月29日 3回目：平成3月実施予定 |
| 場 所 | むつ市役所本庁舎 |
| 活動内容・参加者等 | 1回目 ①平成28年度各団体活動及び平成29年度各団体活動計画報告 ②第2次むつ市食育推進計画推進目標値結果 ③平成29年度食育研修会について ④第3次むつ市食育推進計画策定について ⑤その他 2回目 ①第3次むつ市食育推進計画内容検討 ②その他 |
| 事業名 ② | 平成29年度食育研修会 |
| 期 日 | 平成29年11月19日（日） |
| 場 所 | むつ市中央公民館 講堂 |
| 活動内容・参加者等 | 講師：青森県立中央病院 医療管理監 小野正人 氏 テーマ：「生活習慣病予防のため、子どもの頃からやっておくべきこと」 内容：普段の食生活や運動等で、子ども（幼児期）の頃から気をつけなければならないこと 参加人数：71人 ※講堂前に食育ブースをおき、むつ市の食育推進状況のPRや食育関係のパンフレットの配布を実施した。 |

6 一般社団法人MOAインターナショナル青森

| 活 動 内 容 | |
|-------------------------|---|
| 地域の魅力再発見食育推進事業を活用した食育活動 | |
| 事業名 ① | 食育推進検討会の開催 |
| 期 日 | 平成29年7月と11月 |
| 場 所 | 青森市内 |
| 活動内容・参加者等 | 料理講習会、農業体験会等の実施計画の検討と事業実施のためのネットワークの構築のための検討会を開催。2回 |
| 事業名 ② | 農業体験会・見学会の開催 |
| 期 日 | 第1会場 平成29年7月と10月 第2会場 平成29年5月と10月 |
| 場 所 | 県内2ヶ所 |
| 活動内容・参加者等 | 農産物の生産の場に触れ、生産者から直接指導を受けることで、自然の恵みや食に対する感謝の気持ちを育むことなどを目指して、生産者の畑での農業体験会を実施した。 ・青森市野沢（第1会場） |

| | |
|-----------------------------|--|
| | <p>一回目 平成 29 年 7 月 23 日 大根、白菜の種植え</p> <p>二回目 平成 29 年 10 月 9 日 収穫体験</p> <p>参加者 延べ人数 54 人</p> <p>生産者から、農産物を作る際の苦労やこだわり、農業への思いを直接聞き、生産者あつての農産物であり、農業の価値の再発見に繋がった。</p> <p>・八戸市南郷（第 2 会場）</p> <p>一回目 平成 29 年 5 月 12 日 サツマイモの苗植え</p> <p>二回目 平成 29 年 10 月 5 日 収穫体験</p> <p>参加者 指定の小学校 1～3 学年の全生徒対象 延べ人数 37 人</p> <p>「大きくなれ」と語りかけ苗を定植する児童がいた。一本のツルから、沢山の芋が連なり、稔った姿に驚き、喜んでいた。</p> |
| 事業名 ③ | 料理講習会の開催 |
| 期 日 | 平成 29 年 6 月～9 月 |
| 場 所 | 県内 6 ヶ所 |
| 活動内容・参加者等 | <p>若い世代や次世代を担う子を持つ親子を中心に、「食事を楽しむ」、「バランスのよい食生活で適正体重を維持」、「県産食材の活用」、「日本型食生活」の普及と食生活の改善をテーマに、料理講習会を開催した。</p> <p>指導：MOA 食育推進員を中心に 55 名</p> <p>料理講習会：13 会場で実施</p> <p>（青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、むつ市）</p> <p>参加者：延べ 167 名</p> <p>内容：国産や県産食材を中心に季節の食材を使用した料理</p> <p>日本型食生活を意識した健康に配慮した献立の調理</p> <p>日々の食生活で実践しやすいバランスの取れた献立、</p> <p>郷土料理や日本の食文化を伝える献立の調理</p> <p>献立① ・おにぎり ・冷奴、ピリ辛野菜ダレ</p> <p>・旬の具だくさんみそ汁</p> <p>献立② ・おにぎり ・鮭のグリーンソース</p> <p>・なすの冷やし鉢 ・大豆の五目煮</p> <p>・旬の野菜 具だくさんみそ汁</p> |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと（他団体との連携など） | <ul style="list-style-type: none"> ・事業推進検討会議では、青森中央短期大学から助言、指導を頂いた。 ・むつ市の会場では、むつグランドホテルへ料理講習会の講師を依頼。 ・青森市の会場では、料理講習会を青森市の HP にて公開。 ・八戸市の農業体験会では、その模様をテレビ、新聞等が報道。 ・本事業を通して、食育への関心、特に国産や県産の農林水産物への理解が広がった、また、日本型食生活を理解し、実践する人が増え、食育活動を通じた、地域のコミュニティーづくりにつながっている。 |
| 備 考 | <p>県のスローガン「人幸増加」をめざし、食育による県民の健康リテラシーの向上に努力していきたい。</p> |

7 青森県小学校長会

| 活 動 内 容 | |
|--|--|
| <p>県下 10 の地区における全般的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校における「食育の全体計画」の整備・見直しに努めている。 2 教科、総合的な学習の時間、特別活動（学校給食の時間）等、教育活動全体を通して食育の推進に努めている。 3 専門的知識を持つ栄養教諭、学校栄養職員、調理員、生産者等をゲストティーチャーに迎えた授業を行い、食の指導に生かしている。 4 学校保健委員会の活動に生かし、児童のみならず、教職員、保護者、地域の方々と共に、食について考える機会の設定に努めている。 <p>※ 食育イベントを開催して、栄養教諭、学校栄養職員が給食の紹介や食育のクイズやゲーム等をしている地区がある。</p> | |
| 今後重点的に取り組みたい事項の例 | <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康課題への取組として、食育の性格上、家庭との連携は欠かせない。養護教諭と連携して、個別指導に取り組んでいる地区がある。 2 栄養教諭、学校栄養職員をゲストティーチャーに迎えた出前授業を一部の学年ではなく、全学年での実施を掲げている地区がある。 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なことの例 | <ol style="list-style-type: none"> 1 全小学校において、栄養教諭を活用した授業を実施している地区がある。 2 P T A が中心となり、栄養教諭や学校栄養職員をゲストティーチャーに迎え、保護者向けの食育に取り組んでいる地区がある。（講話、調理実習等） 3 参観日の機会を利用して、栄養教諭、学校栄養職員をゲストティーチャーに迎え講演をした地区がある。 4 学校栄養職員の活用が重視され、多くの学校で学校保健委員会や学級活動（保健、家庭）、クラブ活動等での活用が見られている地区がある。 |

8 青森県中学校長会

| 活 動 内 容 |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 「家庭科」「保健体育」の授業で、食と健康等食育に関する内容を展開し、学習のねらいを達成できるようにしている。 2 生徒会の保健委員会の活動を効果的に展開し、保健委員だけでなく、全校集会等を活用し、全校生徒に健康と食の関係を理解させている。 3 学校と家庭が連携し、家庭において日本の伝統的な食文化や郷土食の良さを再認識できるよう努めている。 4 学校給食等をとおして、食の大切さを学ばせている。 (学校給食センターからの「月ごとのメニュー」「給食便り」「お知らせ」の活用など) 5 10月に開催した青森県中学校長会研究協議会下北大会において、第1分科会で「中学校における食育指導と学校経営」のテーマで研究協議を行った。 |

9 青森県高等学校長協会

活 動 内 容

これまでの取組を継続させるとともに、さらなる充実に努めている。高等学校においては、学校の教育活動全体を通して行われるものであるが、特に男女必修科目「家庭科」においては、以下のとおり、生活全体の中での食生活の営みという視点を持って指導に努めている。

- ① 生涯を見通した食生活を営む力を育むため、ライフステージごとの食生活について考える機会を作っている。
- ② 栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させる実験・実習を用いた体験的な授業を行っている。
- ③ 安全と環境に配慮し主体的に食生活を営む力を身に付けさせるようにしている。
- ④ 「自分で食事を作る」「お弁当の日」など、食材を意識させる機会を設けている。
- ⑤ 食生活上の課題を把握し、それらを解決するために学校家庭クラブ活用やホームプロジェクトを利用し、食育に関する実践的活動に積極的に関わるよう指導している。

食に関する専門科目においては、以下のとおり我が国の食を取り巻く環境の変化や食生活の多様化、国民の健康増進の重要性を考えた、食育の推進を図っている。

- ① 食生活が健康に影響することについて、資料や外部講師を活用し、国民健康・栄養調査、朝食の欠食、栄養の偏り、食習慣の乱れ、脂質の過剰摂取、野菜の摂取不足などの実態や生活習慣病が増加していることなどの、具体的に考える機会を通じて、食生活の改善に主体的に取り組む力を身に付けさせるよう授業を行っている。
- ② 地域の実態を把握し、保育所や幼稚園等、小学校・中学校、特別支援学校、地域における社会教育団体やNPO（特定非営利活動法人）、企業や事業所などの各種団体等と積極的に連携して活動する機会を設けている。

10 青森県特別支援学校校長会

| 活 動 内 容 | |
|---|---|
| <p>青森県特別支援学校校長会としての事業等は行っていないが、会員それぞれが各校の学校経営において食に関する指導を進めるよう努め、次のように、幼児児童生徒の障害等に応じた食に関する取組を行っている。（各校の主な取組を集約）</p> | |
| <p>授業における取組 研修会としての取組</p> | <p>1 幼児児童生徒を対象とした栄養教諭による授業、栄養士や外部講師による講話等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスを考慮した弁当づくりと食事 ・食事のマナー ・学校給食週間でのミニ講話 ・現場実習中のバランス良い食べ方、昼食選び ・望ましい食生活 ・減塩に関する食の指導 ・食育講話 ・食品の栄養素 ・給食委員会活動（放送、掲示、嗜好調査） <p>2 保護者を対象とした講習会等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会 ・給食レシピの提供や携帯食調理法の指導 ・肥満児童生徒への食事調査及び個別指導 ・家庭教育学級で郷土食料理教室（そば打ち体験等）を実施 ・生活習慣病予防の食生活についての講話 ・学校給食のねらいと減塩に関する講話 ・だし活に関する講話 ・食物アレルギーや偏食のある児童生徒への対応 <p>3 職員を対象とした講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた食形態 ・食物アレルギーや偏食のある児童生徒への対応 |
| <p>イベント的取組</p> | <p>1 食品を選択する力や食事のマナー・社会性等の育成、給食や食事をする事への興味・関心の高まりや心身の健康等を期待して取り組む活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイキング給食 ・セレクト給食 ・他県の名物料理、郷土料理の給食 ・校内献立コンクール ・リクエスト給食 ・行事食 ・テーブルマナー教室 ・交流給食 <p>2 地場産物への関心や食文化の伝承などに係る内容を期待して取り組む活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国、県内の郷土料理の給食 ・県産食材や地場産物を活用した給食 ・ふるさと産品給食の日（県産品食材のレプリカ展示とスペシャルクイズ） ・給食献立への地産地消情報の掲載 |
| <p>その他の取組</p> | <p>1 学校菜園での野菜栽培と給食への活用、調理実習の実施</p> <p>2 食育に関する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育ポスターの掲示、「給食だより」「食育だより」「保健だより」「学級通信」等の発行、掲示、ホームページへの掲載 |

| | |
|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ番組による献立等の紹介 ・クイズを交えた「給食ひとくちメモ」の放送 ・歌で覚える「あおもり型」の食べ方指導 ・給食で使われている食材や珍しい食材等の展示 ・献立紹介コーナーとして、地場産物、郷土料理の歴史、由来、栄養などの資料の掲示 ・給食甲子園へのレシピ応募 ・献立表へメニューや食材等に関する一口メモ掲載 |
| 3 | 学校給食献立コンクール等への参加 |
| 4 | 寄宿舎と連携した取組 <ul style="list-style-type: none"> ・交流給食 ・テーブルマナー学習の実施 ・外食経験等による食の知識等の向上 ・食に関する講話の実施 ・生活体験（調理体験）の実施 ・行事食、郷土料理の提供 |
| 5 | 地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・給食便りを通じた学校給食の情報発信 ・学校祭における調理 |
| 6 | 食に関する全体計画の策定 |

1 1 青森県学校保健会

| 活 動 内 容 | |
|------------|---|
| 1 | 健やか青森っ子プラン「健やか青森っ子生活習慣病防止対策」の実施 |
| 2 | 「青森県学校保健・安全・給食研究大会」の開催 ○期日：平成 29 年 11 月 1 日（水） ○会場：南部町立名川中学校 |
| 3 | 学校保健関係団体が行う健康教育に対する支援 |
| 取組の具体的なこと | 県教育委員会、郡市学校保健会及び学校保健関係団体等と連携し、幼児、児童生徒の心身の健康の保持増進と健康課題を解決するため、健康教育としての食育を推進。 |
| 今後取り組みたい事項 | これまで同様、健康教育の中で総合的に取り組むとともに、学校保健関係団体が行う食育に関して積極的に支援する。 |

1 2 青森県PTA連合会

| | |
|-----------|---|
| 事業名 | 食育活動助成事業 |
| 期 日 | 平成 29 年 6 月～平成 30 年 3 月 |
| 連 携 団 体 | (公財) 青森県学校給食会 |
| 活動内容・参加者等 | PTAが行う食育活動に対して、(公財) 青森県学校給食会から経費の助成を受け、親子料理教室やファミリー料理教室を実施している。 |

1 3 公益財団法人 青森県学校給食会

活 動 内 容

1 学校給食に「生きた教材」として、本県で生産された農畜産物及び水産物を年間を通して安定的に供給できるよう、県農林水産部、農協、漁協等の協力、支援を頂き、地場産品の商品の開発・加工に取り組んでいる。

平成 29 年度の県産冷凍カット野菜は、引き続き、「ほうれん草」、「小松菜」等の加工を行い、供給を行った。「ほうれん草」、「たまねぎ」、「じゃがいも」については、加工数量の増加を図るため、原料野菜の安定確保及び加工工場の開拓に向けた取り組みを行っている。

また、県産の水産・畜産加工品については、24 年度に「イカ」、「イワシ」、25 年度に「サケ」、26 年度に「トビウオ」、「青森シャモロック」の加工品の開発を行った。

更に、県産食材の利用率向上を図るため、地場産物加工品を製造できる県内工場の開拓等の取り組みを行っているほか、県学校栄養士協議会 O B 会の会員の協力を得て「地場産物活用推進検討委員会」を設け、地場産物加工品の商品開発等について検討を行っている。

2 学校給食用小麦粉パンについては、主原料を県産小麦ゆきちからを 100% 使用し、更に食塩を減量した新たな配合の小麦粉パンと雪にんじんパンを商品開発し、平成 28 年度から供給を開始した。

パン給食の充実を図るため、平成 26 年 10 月より、地場産物の消費拡大の観点から県産雪にんじんペストを 25% 混入し、更に乳アレルギーに対応した雪にんじんパンの供給を開始している。

また、子どもたちに喜ばれる多様化パンとしてのバターロールの商品開発、小麦粉パン等の品質向上のため、製造時の水分及びグルテンの配合量を調整するなど製造レシピの見直しを行っており、平成 30 年度からの供給開始に向けて検討している。

3 学校給食用米粉パンについては、平成 23 年度から県産小麦ゆきちからと県産米粉を原料とした県産品 100% の米粉パンの供給を行っている。平成 29 年度より小麦粉パン及び雪にんじんパンと同様に食塩を減量し、更にグルテンを減量した新たな配合の米粉パンの供給を開始している。

4 学校給食用米穀の需要拡大への取組みとして、青森県内における米飯給食実施平均回数が週 3.27 回（平成 28 年度）と全国平均の週 3.40 回を下回っていることから、全農あおもり、県農林水産部とともに実施回数週 3 回の市部の教育委員会に対し実施回数の増加について働きかけを行っている。

5 学校給食に関する食育活動の一環として、フードモデル（農水産物 36 種類）を指導教材として作成し、学校・食育関係団体等に貸出を行っている。

6 青森県 P T A 連合会と連携して、県内の郡市連合 P T A 及び単位 P T A 活動の「食育推進事業」に対し、経費の一部を助成する事業を行っている。

7 地場産品を活用した食に関する指導の充実を図るため、青森県学校給食献立コンクールを青森県教育委員会等と共催で実施し、食育推進の支援を行った。

また、コンクール作品が今後の学校給食の献立として活用されるよう商品開発を行っている。

| | |
|-----------------|--|
| 取組の具体的手法や特徴的なこと | 青森県学校給食センター連絡協議会、青森県学校栄養士協議会及び青森県 P T A 連合会との連携を図り、食育の普及啓発を効果的に行うとともに、生産者団体等の協力を得て、地産地消の商品開発に努めたい。 |
|-----------------|--|

1 4 青森県学校給食センター連絡協議会

| 活 動 内 容 | |
|---|------------------------------|
| 学校給食センターの運営を円滑に推進するために、食育及び地産地消に関する研修会等を開催し、食育事業に取り組んだ。 | |
| 取組の具体的手法や特徴的なこと | 学校給食関係団体と連携して、食育事業を支援していきたい。 |

1 5 青森県養護教員会

| 活 動 内 容 | |
|--|---|
| <p>1 会員各自が、勤務校において、家庭・地域・関係機関と連携を図りながら、食育に関する内容に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校栄養職員（栄養教諭や栄養士）と連携し、発達段階に対応した学級・学年における「食」に関する指導の計画・実施（食の出前授業の実施） ・学校保健委員会等での、「食」に関する議題や話題の提供。保健師や栄養教諭等と連携し、あおり型給食や減塩食についての児童・保護者への周知と啓蒙。健康な体づくりについて家庭や地域と考える場の設定と実施 ・地域の食生活改善推進委員会やJ A婦人部等と連携した親子料理教室の実施 ・食物アレルギーについての職員を対象にした研修の実施 ・歯・口の健康に関連した「食」についての指導の実施 ・参観日や学年委員会等での、児童・保護者への給食の試食や調理実習の開催、保健師や栄養教諭による「食」に関する講話の実施 <p>2 県または各郡市において、会員の研修会や情報交換の場を設定し、児童生徒の健康課題改善のため、「食」に関する実践の紹介や研修を実施して資質の向上を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に関する専門家や栄養教諭による「子どもの健康を守る食べ方・生き方」等に関する研修会の実施 <p>3 本会のHP（ホームページ）に県の「食」に関する情報や研修会の案内等を掲載し、会員の「食」に関する情報の周知や、研修会の紹介に努めている。（青森県農林水産部食の安全・安心推進課、あおり食命人自立活動支援事業のページとリンク）</p> | |
| 取り組みの具体的手法や特徴的なこと | <p>栄養教諭や学校栄養職員が配置されていない学校に勤務する会員が多く、校務分掌の中でも「食育」や「給食」に携わることが多い。</p> <p>そのため、自校の実態から健康課題を見据え、多岐にわたる「食」に関する内容の中でも、自校の児童生徒に必要な事項を考えて関係職員・関係機関と連携して計画を立案し、最優先課題を意識的に盛り込んでいける利点もある。</p> <p>今後も「児童生徒へのヘルスプロモーション」を常に念頭に置きながら、自校の職員や家庭・地域・関係機関と連携して「食育」に取り組んでいく。</p> |

16 青森県学校栄養士協議会

| 活 動 内 容 | |
|--------------------|--|
| | <p>1 毎年6月、11月に「ふるさと産品給食の日」と名付け、県産品や地域の産品を多く取り入れた給食を実施している。</p> <p>2 県スポーツ健康課のあおもり型給食促進事業を受けて、5つのコンセプトである、「塩分ひかえめ・野菜たっぷり・あぶらほどよく・ごはんしっかり・青森に感謝」に沿った献立を作成し実施している。</p> <p>3 体格から個人に応じた推定エネルギー必要量を算出する「栄養管理システム」を活用して、給食管理を行い、肥満解消に向けて取り組んでいる。</p> <p>4 食の指導として、給食時間の指導や関係職員と連携して、家庭科や保健体育の時間にバランスのとれた食事のとり方や、健康的な生活の過ごし方などの指導を行い、学校保健委員会では助言を行っている。</p> <p>5 児童生徒に喜ばれる給食を目指し、料理人を講師に迎えて調理講習会を開催し、会員の資質向上に努めている。会員が講師となり、勤務校や他校の保護者に対し、家庭の食生活の改善のため、調理講習会を行っている。</p> |
| 取り組みの具体的な手法や特徴的なこと | <p>1 「ふるさと産品給食の日」には、給食だよりや校内放送等で紹介し、児童生徒、保護者に対して地産地消の啓発を図っている。</p> <p>2 あおもり型給食の普及については、県総合販売戦略課で開発した「できるだし」を使った減塩料理や野菜をたっぷり使ったおいしい料理などを、調理講習会で保護者に伝達する。</p> <p>3 食の指導では、地区ごとにテーマを設け、市保健所と連携した指導、教科での指導、運動の実践など、生活習慣病予防につながるようなものとする。</p> |
| 今後重点的に取り組みたい事項の例 | <p>1 児童生徒の肥満改善に向け、効果を上げる方策について部会を設けて研究し、実践していきたい。</p> <p>2 食の指導については、県内広範囲に実践できるように、関係職員と連携して取り組んでいきたい。</p> |

17 特定非営利活動法人 青森県消費者協会

| 活 動 内 容 | |
|---|--|
| 1 食育活動の継続 (1) 食の安全・安心推進事業 (2) 地産地消推進事業・県産食材利用推進事業 (3) 食品ロス削減推進事業 2 重点的な取組内容 | |
| 事業名① | 食の安全・安心推進事業 (5回) |
| 期 日 | 平成29年4月～平成30年3月 |
| 場 所 | 青森市 |
| 活動内容・参加者等 | <p>食の安全・安心の推進について専門家を招き、講演会、フォーラム、研修会、学習会・料理講習会等を開催</p> <p>■6月28日(水) 平成29年度 消費生活大学講座 第2回 『メディアや広告に惑わされない食生活～「健康食品」で健康が買えますか?』 講師：群馬大学名誉教授 高橋 久仁子氏 会場：県民福祉プラザ4F 県民ホール</p> <p>■11月8日(水) 第53回 青森県消費者大会 「五所川原農林高校のグローバルGAPについて」 講師：青森県立五所川原高等学校 校長 山口 章氏 会場：県民福祉プラザ4F 県民ホール</p> <p>■11月11日(土) アピオ秋まつりトークセッション 参加 「栗原心平のしあわせパパごはん～食を通して自分らしく生きる～」 講師：料理家 栗原 心平氏 会場：アピオあおもり 2F イベントホール ・青森県男女共同参画センター 主催</p> <p>■12月3日(日) 親子で学ぶ消費生活! 「お金のつかい方! & 作ってみよう! 花の巻きずし」 講師：青森中央短期大学 森山 洋美氏 会場：県民福祉プラザ5F 調理実習室</p> <p>■12月7日(木) 「明治の食育★出前料理教室」 講師：明治 北日本支社仙台オフィスコミュニケーション課 阿部裕子氏 会場：県民福祉プラザ5F 調理実習室</p> |

| | |
|-----------|--|
| 事業名② | 地産地消推進事業・県産食材利用推進事業（4回） |
| 期 日 | 平成29年4月～平成30年3月 |
| 場 所 | 青森市、平川市、田舎館村 |
| 活動内容・参加者等 | <p>県産品に親しみ、利用拡大するための料理講習会、バスツアー等を実施。</p> <p>■8月25日（金） 「環境にやさしい農業 産地見学バスツアー」 コース 水稲農家（平川市）～三浦りんご園（平川市） ～田んぼアート（田舎館村）</p> <p>■10月10日（火） 「地元食材を使用した料理教室」 講師：学校法人青森山田学園 青森山田高等学校 調理科教諭 梅田 弥昇彦氏 会場：青森市総合福祉センター 調理実習室</p> <p>■11月13日（月） 「平成29年度攻めの農林水産業推進大会」 参加 特別講演『誰もが活躍できる「選ばれる会社」づくりへの取り組み』 講師：有限会社農園星ノ環 代表取締役 星野 高章氏 会場：青森国際ホテル「萬葉の間」 県農林水産政策課主催</p> <p>◆2月16日（金） 「豚肉を使った料理教室（仮）」 会場：県民プラザ 調理実習室 青森県養豚協会 共催</p> |
| 事業名③ | 食品ロス削減推進事業（2回） |
| 期 日 | 平成29年4月～平成30年3月 |
| 場 所 | 青森市 |
| 活動内容・参加者等 | <p>食品ロス削減を目的とした講演会、料理講習会の開催</p> <p>■10月25日（水） 平成29年度 消費生活大学講座 第6回 「“消費者市民力”を高めよう・広めよう！～消費者被害ゼロの地域づくり～」 講師：元消費者庁長官 （一社）消費者市民社会をつくる会 代表理事 阿南 久 氏 場所：県民福祉プラザ 県民ホール</p> |

18 一般社団法人 青森県調理師会

| | |
|-------------------------|--|
| 事業名 | 親子料理教室 |
| 期 日 | 平成 29 年 7 月 27 日 (木) |
| 場 所 | アピオあおもり |
| 活動内容・ 参加者等 | 小学生の親子 5 組 11 名が参加 県産食材を使った講習会を開催 |
| 取組の具体的 手法や特徴的 なこと | 県産食材を使った減塩、油脂を控えたバランスの良い料理を講習。 食事のマナーも教えます。 |
| 備 考 | 平成 16 年より毎年実施。 |

19 青森県料理飲食業生活衛生同業組合

| | |
|---------------|--|
| 事業名① | ものづくりフェア |
| 期 日 | 平成 29 年 11 月 18 日、19 日 2 日間で 1,000 名 |
| 場 所 | ねぶたの家 ワ・ラッセ |
| 活動内容・ 参加者等 | 地場産品を活用した創作料理の展示。県産食材を活用し、地産地消の創作料理をテーマにした「第 10 回青森県料理コンクール」における優秀作品を展示。 |
| 事業名② | 短命県返上プロジェクト |
| 期 日 | 平成 30 年 2 月 20 日、35 名予定 |
| 場 所 | 大鰐町中央公民館 3 階 研修室 |
| 活動内容・ 参加者等 | お父さん頑張って弁当、スタミナ弁当、減塩なのにまんぷく弁当の開発、販売についての講習会。 |

20 青森県農業協同組合中央会

| | |
|-----------|---|
| 事業名 ① | 小学校5年生用社会科副読本「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」の発行 |
| 期 日 | 平成29年4月1日発行 |
| 活動内容・参加者等 | 小学校5年生の社会科で学習する「わが国の産業と国土のようす」について、本県の例を参考に学習してもらうための副読本と、教師用の指導書を作成（児童用12,000部、教師用1,150部）。小学校5年生全員に配布。 |
| 事業名 ② | 「ごはんお米とわたし」作文・図画コンクール |
| 期 日 | 平成29年6月～平成30年2月 |
| 活動内容・参加者等 | 毎日のごはんのおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関する思い出や、考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現してもらい、農業（特にお米やごはん食）を理解してもらうためにコンクール及び表彰式を実施。 ○対象：県内全小・中学校（実施校124校） ○作文249点、図画188点 |
| 事業名 ③ | 「バケツ稲づくり」 |
| 期 日 | 平成29年4月～ |
| 活動内容・参加者等 | バケツを使って稲を育てるという一連の作業をとおして、お米やごはん、稲作文化、農業、食料の大切さを理解してもらうために、「バケツ稲づくりセット」①種籾（肥料付）、②栽培マニュアル、③手引書（教師用）を無償配布。 ○対象：全小学校（原則として5年生） 実施校52校 2,003セット |
| 事業名 ④ | J Aふるさと市 |
| 期 日 | 平成29年11月11日～12日 |
| 活動内容・参加者等 | J Aグループ青森、青森県漁業協同組合連合会、青森県森林組合連合会、（公社）青森県物産振興協会、あおもり産品販売促進協議会等8団体主催の、「青函交流圏大農林水産祭」に、J Aグループ青森は「J Aふるさと市」として出展し、消費者に対して県産農畜産物の安全性やおいしさをPRする試食販売会や、J A・協同組合の活動を理解してもらうためのPR活動を実施。 ○場 所：青森市「青森産業会館」 ○出店内容：りんご（生果）、りんごジュース、ながいも、にんにく、ごぼう、かぶ、長ねぎ、白菜、ゼネラルレクラーク、漬物、スイーツなどを販売 |

21 青森県J A女性組織協議会

| | |
|-----------|--|
| 事業名 ① | 農業ふれあい教室 |
| 期 日 | 平成29年4月～平成30年1月 |
| 活動内容・参加者等 | 地域の子どもたちに、農産物の栽培をとおして、作る楽しさと食べる喜びを感じてもらい、農業に対する理解と地産地消の啓もうを図るために、県内5J A女性部で管内小学校児童と一緒に植付けから収穫までの農業体験や、収穫した農産物を使った料理教室などを実施。県内小学生240名が参加。 |
| 事業名 ② | 作文・かべ新聞コンクール |
| 期 日 | 平成29年12月 |
| 活動内容・参加者等 | 農業ふれあい教室で農作業を体験した児童に作文・かべ新聞を書いてもらい、優秀者等を表彰。 応募作品数 作文：5小学校から13作品、かべ新聞：5小学校から8作品 |

| | |
|-----------|--|
| 事業名 ③ | 各JA女性部による地域に根ざした食育活動の展開 |
| 活動内容・参加者等 | 各JA女性部で、食育活動の一環として、地元小学校と連携し、学校給食の食材として地場産物を納入したり、農作業や調理など、各種体験学習の受入を実施。 |

2.2 全国農業協同組合連合会青森県本部

活 動 内 容

JAの活動を通して「農業」に接することにより、地元や県産農畜産物への理解・愛着を深めてもらいたいという意図のもと、小学生・園児に向けて食育活動に取り組んだ。

1 紙芝居キャラバン：やさい部 やさい花き課

(1) 地域タレント「トリ☆ポン」のトークによる「青森いきいき野菜紙芝居」を実施した。そのうち1回はJAゆうき青森の調理実習と共催で行った。

| 実施月日 | 市町村名 | 学校名 | 対 象 |
|-------|------|---------|------------------------------|
| 6月16日 | 田舎館村 | 田舎館小学校 | 紙芝居 2年生 70名 |
| 7月4日 | 六ヶ所村 | 千歳平小学校 | 調理実習 5年生 12名 紙芝居 全校児童 81名 |
| 7月19日 | 西目屋村 | 西目屋小学校 | 紙芝居 全校児童 43名 |
| 10月5日 | 青森市 | 篠田小学校 | 紙芝居 全校児童 308名 |
| 11月8日 | 平川市 | はねすこども園 | 紙芝居 全園児 100名 |
| 12月1日 | 弘前市 | 小沢小学校 | 紙芝居 1・2年生 79名 |
| 12月5日 | 弘前市 | 豊田小学校 | 紙芝居 1・2年生 115名 |

※平成30年度も実施予定。

2 食育体験（餅つき体験・バター作り体験）：営農対策部 販売企画課

農協会館1Fロビーでの「農畜産物即売会」や「歳末市」において、JA青森女性部の協力のもとに、子供達を対象に餅つきやバター作り体験などの食育活動に取り組んだ。

| 実施月日 | 催事名 | 実施場所 | 内容 | 備考 |
|--------|---------|-------|--------------|--------------------|
| 8月10日 | 農畜産物即売会 | 県農協会館 | 餅つき | 子供の来場者 |
| 9月22日 | 〃 | 〃 | 餅つき バター作り | 杉の子第2幼稚園 園児 49名 |
| 10月27日 | 〃 | 〃 | 餅つき バター作り | 杉の子幼稚園 園児 73名 |
| 12月28日 | 歳末市 | 〃 | 餅つき | 子供の来場者 |
| 12月29日 | 〃 | 〃 | 餅つき | 子供の来場者 |

※平成30年度も実施予定。

2 3 青森県青果卸売市場協会

| | |
|--|--|
| 事業名 | 「八戸市中央卸売市場協力会」朝から元気に！夏休み親子市場見学会 |
| 期 日 | 平成 29 年 7 月 22 日（土）午前 6 時～9 時 |
| 場 所 | 八戸市中央卸売市場 |
| 活動内容・ 参加者等 | 市場の仕組みと役割を紹介した子供向けDVDを視聴後、迫力ある青果部のせりを見学したり、実際にせり台に上がり模擬せりを体験。卸売場・バナナ棟・冷蔵庫棟等市場内施設の見学の他、朝食会と旬のフルーツの食べ比べ等を行った。 ※参加者：親子 13 組 36 名（大人 17 名＋子供 19 名） |
| 事業名 | 「八戸市中央卸売市場協力会」朝活！大人のための青果市場見学会 |
| 期 日 | 平成 29 年 8 月 26 日（土）午前 6 時～9 時 |
| 場 所 | 八戸市中央卸売市場 |
| 活動内容・ 参加者等 | 食育DVDを視聴後、迫力ある青果部のせりを見学したり、実際にせり台に上がり模擬せりを体験。卸売場・バナナ棟・冷蔵庫棟等市場内施設の見学の他、朝食会と旬のフルーツの食べ比べ等を行った。 ※参加者：大人 29 名 |
| 事業名 | 青森市中央卸売市場運営協力会「夏休み親子市場体験会」 |
| 期 日 | 平成 29 年 7 月 29 日（土）午前 9 時～午後 1 時 |
| 場 所 | 青森市中央卸売市場 |
| 活動内容・ 参加者等 | 施設見学や「せり売り」の見学、調理実習などを通じて、生鮮食料品の流通過程や卸売市場の役割、さらには食を大切にする心を育て、日本型食生活の実践を促していく。 ※参加者：親子 13 組 |
| 事業名 | 青森市中央卸売市場運営協力会「親子料理教室」 |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月 2 日（土）午前 10 時～午後 1 時 |
| 場 所 | 金沢小学校 |
| 活動内容・ 参加者等 | 食育体験教室 地元の食材を使った地産地消メニューの料理教室 ※参加者：小学校 4～6 年生の児童とその保護者 親子 9 組（児童、保護者合計 18 名） |
| 取組の具体的 手法や特徴的 なこと（他団 体との連携な ど） | ・八戸市中央卸売市場協力会 普段は公開されていない朝の活気あふれる青果市場を見学し、流通の仕組みや食文化、食の大切さなどについて理解を深めてもらおうと、市場内関係者が連携し実施している。案内役のガイドは、あおもり食育サポーターや野菜ソムリエの資格を有する知識豊富な市場内関係者が務め、また旬のフルーツの食べ比べのコーナーでは、卸売業者の野菜ソムリエが豆知識や栄養効能等も紹介している。 ・青森市中央卸売市場運営協力会 学校訪問型として料理教室を開催したことから、市内の小学校と連携を図った取組を行った。 |

2 4 公益社団法人 青森県青果物価格安定基金協会

| | |
|-----------|---|
| 事業名 | 青森りんご出前授業 |
| 期 日 | 平成 29 年 11～12 月 |
| 場 所 | 県内小学校 20 校 |
| 活動内容・参加者等 | 小学児童を対象に、りんごの栄養、機能性成分や摂取目安量等の情報提供を通じ、果実の摂取促進を図るため、青森県と連携して実施した。 |

2 5 一般社団法人 青森県りんご対策協議会

| | |
|-----------|---|
| 事業名 | 若年層を対象とした消費宣伝対策事業 |
| 期 日 | 平成 29 年 9 月～平成 30 年 3 月 |
| 場 所 | 青森県内、全国各地 |
| 活動内容・参加者等 | <p><県内></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 青森県内学校給食用としてりんごを提供 2 青森県りんご果樹課が実施する県内小学校での出前授業へのりんご、学童用資材の提供。 <p><全国各地></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼稚園、小学校児童等を対象とした「青森りんご食育授業」 食育用の紙芝居などを活用した「青森りんご食育授業」などを全国各地で開催。 紙芝居は全国 13 地区青森りんごの会事務局に設置しているほか、本会ホームページにおいてデジタル紙芝居を配信中。 2 食育モデル校へのりんご協賛 愛知県豊橋市立富士見小学校で昭和 59 年の開校以来開催され、全国ニュース等でもたびたび取り上げられている「校内りんご皮むき大会」にりんごを協賛。 3 県主催の「青森県知事直伝!親子で学ぶアップルスクール」にミスりんごが参加 (愛知県、大阪府、福岡県) 4 県主催の「青森りんごキッズ」認定事業への協力、「青森りんごキッズ絵画コンクール」の共催。 5 保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、専門学校を対象として学習用、給食用りんごを提供。 6 学童用資材の作成 りんごの品種やりんご作りの作業過程を紹介した下敷き、学習帳を作成し、全国各地の青果会社を通じて小学校等に配布。食育教材として活用。 7 栄養系大学へのりんご提供 次世代の食育指導者となる管理栄養士、栄養教諭の養成課程がある全国の栄養系大学を対象に、調理実習やレシピ開発、研究対象としてりんごを提供。りんごに関する正しい情報を伝えるための学習冊子を作成配付し、次世代の青森りんごオピニオンリーダーとして活躍する人材を育成。 管理栄養士養成課程のある国内の大学の約半数にあたる 65 大学が事業に賛同し、延べ 12,000 名(見込み数)の学生が参加。同時に若年層の消費動向やりんごに関する認識度を知るための大規模なアンケートを実施。 8 大人のための食育講座の開催と動画配信 |

| | |
|-----------------------------|---|
| | 20代の女性を対象に、「アップルパワーサラダ会」と題したイベントを都内で開催。イベントの中でスポーツ栄養士による食育講座を行ったほか、講座の様子をまとめた動画をYouTubeで配信。 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと（他団体との連携など） | 本会の構成団体である「全国13地区青森りんごの会」（約200の青果会社が加盟）とのネットワークを生かし、全国各地で食育活動を展開している。 |

26 公益財団法人 青森県りんご協会

| | |
|-----------------------------|---|
| 事業名① | 青年部女性支部 りんごPR |
| 期 日 | 平成30年1月24日（水）～25日（木） |
| 場 所 | 東京都 |
| 活動内容・参加者等 | 東京都延山小学校5年生3クラス（2時間目～4時間目）を対象に出前授業。東一東京青果(株)にて県産りんご動向の聞き取りと近隣スーパーを視察。 |
| 事業名② | 青年部 りんごPR |
| 期 日 | 平成30年2月1日（木）～3日（土） |
| 場 所 | 岐阜県 |
| 活動内容・参加者等 | 岐阜県且格小学校（3年、4年生77名）を対象に、出前授業。岐阜中央青果(株)にて、県産りんご動向の聞き取り。 |
| 事業名③ | 青年部 りんごPR |
| 期 日 | 平成30年2月19日（月）～21日（水） |
| 場 所 | 大阪府 |
| 活動内容・参加者等 | 大阪府栄小学校（1年生44名）を対象に、出前授業。大果大阪青果(株)にて、県産りんご動向の聞き取り。 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと（他団体との連携など） | 県産りんごの栽培や販売について説明し、質問を受け、その後2品種（ふじ、王林）の試食を行った。栽培管理から出荷までを青年部で説明し、販売等については市場担当者が説明。 （岐阜県中央青果(株)、県名古屋情報センター、大果大阪青果(株)、県大阪情報センター、東一東京青果(株)） |

27 青森県漁業協同組合連合会

| 活 動 内 容 | |
|---|---|
| <p>1 青森県産水産物の品質、衛生管理面の向上に努めるとともに、適正な産地表示にもこれまで以上に取り組み、消費者との信頼関係の構築に努めました。</p> <p>2 青森ほたてのPRと、消費拡大を図るための宣伝活動を継続的に実施しました。</p> <p>3 青森県ほたて流通振興協会に共催し、県内小学校（3校）で出前講座を実施、県産ほたての長期的な食育推進と消費拡大を図りました。</p> <p>4 ホームページ上での「青森のほたて」「青森のお魚」「お魚クイズ・ことわざ・漢字」や「ネット販売」により、魚への知識向上と消費者への魚食普及を図りました。</p> <p>5 県内外の物産展等に出展参加し、県産水産物の販売、マグロの解体販売等で本県の水産物及びその加工品の美味しさをPRし、消費拡大を図りました。</p> | |
| 取組の具体的なこと | 漁協、関係団体と連携を密にし、本県水産物の更なる啓発と食育の推進に取り組んでいきます。 |

28 青森県漁協女性組織協議会

| 活 動 内 容 | |
|--|---|
| <p>各地の漁協女性部の活動を支援。</p> <p>1 部員を対象とした活動への支援</p> <p>(1) 地元で獲れる多種多様な魚の料理教室（郷土料理の伝承）</p> <p>(2) 子どもの成長を願う行事での料理教室（伝統料理の伝承）</p> <p>2 学校を対象とした活動への支援</p> <p>小学校、中学校、高等学校での料理教室（魚離れ対策、魚の料理法の普及）</p> <p>3 一般県民を対象とした活動への支援</p> <p>各イベントに出店参加して、加工品の販売、魚食普及PR</p> | |
| 取組の具体的なこと | 地産地消、魚離れ対策、一次二次加工による付加価値をつける魚の料理法、伝統料理、郷土料理の伝承。 今後は保健所とも連携したい。 |

29 公益社団法人 青森県物産振興協会

| | |
|-----------|---|
| 事業名 | 「青森の食の魅力」を発信する青森県物産展等の開催 |
| 期 日 | 平成29年4月～平成30年3月 |
| 場 所 | 県内外の百貨店、量販店、当協会直営催事スペース（新青森駅内）、産業会館 |
| 活動内容・参加者等 | 本県が誇る安全・安心な農林水産物及びその加工品を県内外の消費者に広く紹介するために、物産催事や大農林水産祭を開催し、「青森の食の魅力」を発信した。 |

30 株式会社さくら野百貨店

| | |
|------------------|---|
| 事業名 ① | シニア野菜ソムリエの「野菜・食べ比べ教室」 |
| 期 日 | 毎月1回 |
| 場 所 | さくら野百貨店 青森本店 |
| 活動内容・参加者等 | 店顧客を対象（20～40名）に、旬の野菜、果物の食べ比べや調理方法を紹介し、野菜・果物の魅力を多くの方へ広げる活動を実施。 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと | 地場・地方の産地・取引先様からの協力もいただき実施。 |
| 備 考 | 平成30年度も実施予定 |

31 株式会社ユニバース

| 活 動 内 容 | |
|--|---|
| 1 店内にて「だし活」PR・試食販売 2 減塩・適塩料理教室の開催 3 十和田東店・東青森店の「クッキングサポート」でメニュー提案 4 「食育&健康 もっと野菜を食べよう」をPR 5 チラシ上で、「減塩・低カロリー・低脂肪特集」を実施(毎月1回) 6 毎月「おいしい・ヘルシー簡単食育レシピパンフレット」(厳選6品掲載)を制作し、全店にて配布 7 地産地消の取り組み：県産品フェアを実施(6月、10月) 8 食品残渣の堆肥化による野菜(エコごぼう)の販売(55店舗 BH湊店・PU十和田店除く) | |
| 事業名 ① | 減塩・適塩 料理教室の開催 |
| 期 日 | 平成29年8月24日 |
| 場 所 | 青森市 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと | 20名様が参加。 食品メーカー様とタイアップして開催。減塩・適塩を意識した調理方法を学び、プロジェクターを使用した食育・健康についての勉強会も開催しました。 |
| 事業名 ② | 「クッキングサポート」でのメニュー提案 |
| 期 日 | 毎日 (メニューは、1週間を月曜日～木曜日の4日間、金曜日～日曜日の3日間に分けて週2品提案) |
| 場 所 | 十和田東店、東青森店 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと | 「健康・減塩・低カロリー」をテーマに、食品メーカー様からご提供いただいたメニューを調理し、試食を実施しました。 |
| 事業名 ③ | 「嶽きみ収穫体験」の開催 |
| 期 日 | 嶽きみ収穫：9月3日 |
| 場 所 | 嶽きみ体験：弘前市の岩木山麓 |
| 活動内容・参加者等 | 嶽きみ体験：実際に収穫し食べて収穫の魅力を味わいました(親子25組50名様)。 |

| | |
|-----------|--|
| 事業名 ④ | 「食育&健康 もっと野菜をたべよう」をテーマに POP・チラシ PR 掲載 |
| 期 日 | 毎月実施（チラシ掲載は毎週） |
| 場 所 | ユニバース全店、全店チラシ |
| 活動内容・参加者等 | 「食育&健康 もっと野菜を食べよう」をテーマに店内で POP 活用やチラシ表示することで食育活動の啓蒙を実施しました。 |
| 事業名 ⑤ | 「おいしい・ヘルシー簡単食育レシピパンフレット」の製作、配布 |
| 期 日 | 毎月発行 |
| 場 所 | ユニバース全店 |
| 活動内容・参加者等 | 管理栄養士野呂浩子先生監修によるパンフレットレシピに、減塩調理・丈夫な体作りのできるバランスの良いメニュー提案など啓蒙活動を掲載しています。 |

3 2 株式会社マエダ

| | |
|-----------|---|
| 事業名 ① | 山菜を喰らう会 |
| 期 日 | 平成 29 年 5 月 21 日 |
| 場 所 | むつ市薬研 |
| 活動内容・参加者等 | 地元のガイドの方と供に山菜の収穫体験。 収穫後は山菜料理を食べて頂き、地元の食材の魅力を再発見してもらう。 12 名参加 |
| 事業名 ② | だし活店頭 P R |
| 場 所 | 三沢店 |
| 活動内容・参加者等 | 三沢店に知事に来ていただき、だし活商品をお客様へ P R。 だし活商品を使った商品の試食など。 |
| 事業名 ③ | お弁当の日 |
| 期 日 | 平成 29 年 11 月 6 日 |
| 場 所 | むつ市立第二田名部小学校、マエダ本店 |
| 活動内容・参加者等 | 小学校で実施しているお弁当の日への協力 1 お弁当の日に向けた調理実習への卵、ウインナーの提供。 2 お弁当の日に合わせて、食材を購入するお客様向けに「お弁当材料」がわかりやすくなるよう売場表示を工夫。 3 お弁当の日当日の小学校での写真撮影とその写真をマエダ本店で展示。 |
| 事業名 ④ | むつ市のうまいは日本一 |
| 期 日 | 平成 29 年 8 月 25 日～27 日（本店） 平成 29 年 11 月 25 日～26 日（ガーラモール店） |
| 場 所 | マエダ本店、ガーラモール店 |
| 活動内容・参加者等 | むつ市の特産品を催事場に集め、試食・実演販売の実施。 むつ市のキャラクター「ムチュラン」も登場。むつ市から、ハッピー、のぼり等の協力をいただき P R を行った。 |

| | |
|---------------|---|
| 事業名 ⑤ | 地場商品コーナーの展開 |
| 期 日 | 通年 |
| 場 所 | 各店舗 |
| 活動内容・ 参加者等 | 「地産地消」を目的に地場野菜を中心に販売。 全店に販売場所を常設。専任の仕入担当者をおき、野菜以外にも地元加工品を品揃えし、コーナーの充実を行っている。数店舗で冷蔵ケースを導入し、漬物等加工品を販売。 |
| 事業名 ⑥ | おさかな検討会 |
| 期 日 | 年2回(8月、2月) |
| 場 所 | 各店舗 |
| 活動内容・ 参加者等 | 簡単でおいしい食べ方の提案。各店舗へ調理レシピを配布。 旬に合わせて配布し鮮魚売場へ設置した。 青森県のおさかな自慢情報として発信。 |
| 事業名 ⑦ | お客様向け料理教室の開催 |
| 期 日 | 通年 |
| 場 所 | 青森市、むつ市 |
| 活動内容・ 参加者等 | 食品メーカー様と協力し、現在販売している商品を中心に料理教室を開催。 |
| 事業名 ⑧ | あおもり食命人事業 |
| 期 日 | 通年 |
| 場 所 | 県内各店舗 |
| 活動内容・ 参加者等 | 穀類を主食に、野菜・魚介類・大豆製品・海藻類をバランス良くとれるよう「まごわやさしい」をキーワードに「あおもり食命人弁当」の販売、天然だしを使用した手作り惣菜の販売をしています。 |
| 事業名 ⑨ | 県産品愛用応援キャンペーンに合わせた県産品フェアの開催 |
| 期 日 | 平成29年9月～11月 |
| 場 所 | 県内各店舗 |
| 活動内容・ 参加者等 | 青森県産品特集のチラシ掲載。 各店では県産品愛用応援キャンペーンの応募企画。 |
| 事業名 ⑩ | 野菜で健康大作戦 |
| 期 日 | 平成29年9月から |
| 場 所 | 県内各店舗 |
| 活動内容・ 参加者等 | 「野菜で健康大作戦」ののぼり、リーフレットを店内で展開。 ロゴマークのチラシ掲載を行う。 |

3 3 株式会社イトーヨーカ堂 八戸沼館店

| | |
|---------------|--|
| 事業名① | クッキングサポート |
| 期 日 | 通年 |
| 場 所 | 食品売場内 クッキングサポートコーナー |
| 活動内容・ 参加者等 | 地場商品（野菜・果実・鯖・いか等）を使った、食事バランスの取れたレシピを簡単便利、時短に拘った提案を定期的実施して地産地消の推奨を次代のトレンドに合わせた提案をしています。 |
| 事業名② | 野菜で健康大作戦 |
| 期 日 | 随時 |
| 場 所 | 食品売場内 青果コーナー |
| 活動内容・ 参加者等 | 買い易い選び易いを基準に展開や価格を日々模索し検討し地場農家さんとの繋がりも重要視しながら「野菜で健康大作戦」の旗（のぼり）を立てて消費の拡大を狙う展開を継続しています。 |

3 4 株式会社イトーヨーカ堂 五所川原店

| | |
|---------------|--|
| 事業名① | だし活イベント |
| 期 日 | 平成 29 年 3 月 22 日 |
| 活動内容・ 参加者等 | エルム、イトーヨーカ堂五所川原店へ知事に来ていただき、だし活商品をお客様へPR。だし活商品をお客様へ試食してもらう。 |
| 事業名② | お総菜売場のこだわりフライ油 |
| 期 日 | 通年 |
| 場 所 | 総菜売場 |
| 活動内容・ 参加者等 | コレステロールゼロのフライ油を使った惣菜を販売。 |

35 イオンリテール株式会社 イオン青森店

| 活動内容 | |
|--|--|
| <p>1 イオンホームページ「Let's 食育！」(URL http://www.aeonretail.jp/kodawari/shokuiku/)では、さまざまな食育への取組を紹介しています。 また、糖質オフ商品の紹介や、おすすめ健康レシピの提案も実施しています。</p> <p>2 青森県「短命県返上」「だし活」との連携強化。 「だし活」「おいしい減塩」商品の重点的販売を実施。</p> <p>3 毎月15日は「じもの日」と銘打って、青森の県産品の「安全・安心」をチラシ訴求するとともに、試食販売を実施。</p> <p>4 お総菜の揚げ油は、特定保健用食品「健康サララ」を使用し、高カロリー、高コレステロールに配慮した商品を販売。</p> <p>5 「イオンチアーズクラブ」の活動の中で、環境活動を行うとともに、食育活動も併せて実施しています。</p> | |
| 事業名 ① | 「だし活」の取組み |
| 期 日 | 2016年3月1日より通年 |
| 場 所 | イオン青森県 食品売場において |
| 活動内容・参加者等 | 食品売場において、「できるだし」商品を通年コーナー展開。 できるだしを使ったおいしい減塩レシピをチラシに掲載 また、惣菜売場では食命人弁当や、高血圧予防の「3ダウンレシピ」惣菜とサラダを販売し、食品売場全体で短命県返上に取り組んでいる。 |
| 事業名 ② | 毎月15日は「じもの日」 |
| 期 日 | 2014年10月15日より、イオン、ダイエー、マックスバリュなど全国約2,000店舗にて、地産地消・地産域消を推進する「じもの日」の取組みを開始。 |
| 場 所 | イオン青森県 食品売場において |
| 活動内容・参加者等 | お客様に鮮度のよい、安全・安心な食品をお届けするため、地元生産者の皆さまとのパートナーシップのもと、旬の地場野菜や地元漁港から直送された鮮魚、地域の特産品など、青森県ならではの品々を試食販売も交えて地域振興に向け取組みをしています。 |
| 事業名 ③ | イオン青森チアーズクラブ「県産品を使ってエコクッキング」 |
| 期 日 | 2017年9月24日 |
| 場 所 | 荒川市民センター |
| 活動内容・参加者等 | チアーズクラブメンバー8名 協力：NPO法人青森市ストップ温暖化センター 青森県産品を使ってエコクッキングを実施。いつもは捨ててしまうお茶っぱと「お茶がら入りチャーハン」、「大根おろしとなめこのみそ汁」、「大根の皮のきんぴら」、「浪岡のカシスでジャム」を作りました。フードマイレージ、フードロスについても知識を深め、片付けはアクリルたわしを使い、自然素材の洗剤をつかって実施しました。 |

3 6 紅屋商事株式会社

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | 食育大試食会の実施 |
| 期 日 | 毎月第 3 土曜日（8 月と 12 月を除く）11：00～12：00 15：00～16：00 |
| 場 所 | カブセンター、ベニーマート全店（青森新町店は除く） 県内 10 店舗で実施 |
| 活動内容・ 参加者等 | <p>1. ①県内 10 店舗に食育コミュニケーターの資格を有する「お料理コンシェルジュ」を配置し、週に 3 回以上、健康提案を主とした食育啓蒙活動を実施。 ②毎月 19 日を含む週を食育週間とし、その週の土曜日に大試食会を実施。 参加者：コンシェルジュ（主に食育コミュニケーターの資格を有する） 店舗従業員（日本食育コミュニケーション協会様より指導）</p> <p>2. 食育コミュニケーション活動の概要 （1）①の活動はクッキングサポートコーナーにおいて毎日若しくは週に 3 回ほどコミュニケーションをとりながら料理提案をする。 ②の活動は毎月テーマを設け、そのテーマに沿った一汁三菜のメニュー提案により、豊かな「食」に対する啓蒙活動の実施。 （2）コンシェルジュによる果物のテイस्टィングでお客様の声を吸い上げ、品質の向上に努めている。 （3）食育活動における一汁三菜やレシピ提案を実施する際は、食事バランスガイドや食物アレルギー原因物質の提示を行い、それについての説明を実施。 （4）使用する食材は極力、その時の旬の生鮮食材、県産食材（ない場合は近県産または国産）を使用。 （5）調味料は合成添加物無添加・合成着色料無添加のものなどをなるべく使用する。</p> <p>3. 食に関する知育活動 （1）店舗独自で手作りの知育グッズによる知育活動の実施（例、野菜 350g ってどれくらい？、豆掴みゲーム、食育塗り絵、など）。 （2）メーカー様ご協力の元、店舗での食育教室実施。 7 月と 11 月にハウス食品様と「スパイスで減塩しよう教室」の実施。（イートインコーナー利用）</p> <p>4. 社外機関との連携。 （1）11 月 25 日青森中央短期大学の学生とベニーマート観光通り店にて「野菜を食べる大切さ」の知育活動を実施。 （2）毎月第 3 土曜日の食育大食会時に八戸食生活改善推進員と共同で、だし活運動を実施（8 月と 12 月を除く） （3）青森テレビ「わっち」内で当社のこだわり商品の紹介と食育クイズを実施。（月 1 回第 4 水曜日）</p> <p>5. 地産地消の取組 （1）青森県産品愛用応援キャンペーンとのコラボレーション（9 月） 全店で「地産地消」をテーマに、食育活動に絡めて県産食材・県産商品の推奨販売を実施。 （2）カブセンター長苗代店に三村知事をお迎えし、県産品の PR 活動を実施（9 月）</p> <p>6. 県の事業との連携 （1）「野菜で健康大作戦」 野菜を食べようキャンペーンの活動。</p> |

| | |
|-------------------------|--|
| | <p>毎回の食育活動時に野菜摂取向上の呼びかけを行う。</p> <p>(2) 「だし活」事業 毎回の食育活動時に、だし活の広報を行う。 県と食生活改善推進員様たちのお取組を店舗で実施（弘前店、黒石店、大野店、観光通店、長苗代店）</p> <p>(3) 「食命人」事業 協力店舗として広報に努める。</p> |
| <p>取組の具体的な手法や特徴的なこと</p> | <p>1. 展開方法においては、一昨年より活動を強化するためにコンシェルジュ課を設置</p> <p>2. 今期は年間を通して「脱・短命県と共食」を提案し続けた。</p> <p>(1) 青森県の平均寿命が最下位だということをお知らせし、その対策として減塩（適塩）についてのPOPやコミュニケーションを実施。</p> <p>(2) コンシェルジュによる日々のメニュー提案による具体的な減塩方法の提案 カリウムを多く含む野菜を摂取することで減塩につながるということを提案し、野菜摂取を啓蒙。 だしを上手に活用することで塩分を控えてもしっかりとした味付けができることを、体験を通じて啓蒙。</p> <p>(3) 共食の大切さを食育通信やPOPで啓蒙</p> <p>(4) 減塩アンケートの実施 毎月の食育活動時に減塩アンケートを実施。</p> <p>①平均寿命最下位の認識 ②減塩に対する意識調査 ③当店の減塩提案の認識についての調査 ④減塩メニューについての感想</p> |
| <p>備考</p> | <p>1. 各種表彰について</p> <p>(1) 日本食育コミュニケーション活動発表全国大会において、「食育コミュニケーション大賞」、「地域密着大賞」（2013年、2014年、2015年）、「健康提案大賞」（2016年）を受賞</p> <p>(2) フード・アクション・ニッポンアワード2014において、「流通部門 入賞」を受賞</p> <p>2. 今後の活動</p> <p>今期は減塩の取組をさらに深め、県の取組と歩調を合わせ「野菜摂取向上」「だし活」の考えを常に取り込んで「脱・短命県」に取り組みたい。</p> <p>さらに、コンシェルジュ課の設置により、お客様へのマーケティングの強化、また高齢のお客様への思いやりを持った接客を心がけ、時代のニーズに合った活動をしていきたい。</p> <p>また、和食の文化を大切に、和食の利点をクッキングサポート活動や食育大試食会で広く伝えていきたい。</p> <p>第3次食育推進基本計画でも提唱されている「共食」を推奨し、家族や仲間と食べることの大切さや利点を大人にも子供にも伝え、孤食や個食を少なくする活動を継続強化していく。</p> |

37 一般社団法人 青森県歯科医師会

| | |
|-----------|---|
| 事業名 | 第81回全国学校歯科保健研究大会 |
| 期日 | 平成29年10月26日(木)・27日(金) |
| 場所 | リンクステーションホール青森(青森市) |
| 活動内容・参加者等 | 参加対象：青森県民、全国の医師、歯科医師、歯科医療従事者等、養護教諭等学校関係者、PTA会員、学校歯科保健関係者ならびに歯科保健または学校歯科保健に関心のある方 内容：主に学校領域(幼稚園・認定こども園・保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)の歯科保健について、食べる機能の支援についての講演・シンポジウム・ポスター発表。各領域での歯科保健活動および食育活動についての実践発表を行った。 |
| 備考 | 来年度は県民向けイベント「8020健康社会フォーラム」を11月11日(日)に開催予定。 |

38 公益社団法人 青森県看護協会

| | |
|------------------|---|
| 事業名① | 看護の日・看護週間事業 |
| 期日 | 平成29年5月7日～5月13日 |
| 場所 | 県内6支部及び会員所属病院 |
| 活動内容・参加者等 | 地域において一般県民を対象にした生活習慣病予防等の食育推進に係る活動の実施。 |
| 事業名② | 「まちの保健室」定期的健康相談事業 |
| 期日 | 平成29年4月～30年3月 |
| 場所 | 県内4か所 |
| 活動内容・参加者等 | 青森市：道の駅「ゆ～さ浅虫」(16日間・PRイベント5月3日) 青森市：「サンロード青森」(51日間PRイベント9月30日) 八戸市：「はっち」(51日間・PRイベント8月21日) 鱒ヶ沢町：海の駅「わんど」(31日間・PRイベント4月24日) |
| 事業名③ | 各市町村における「健康まつり」参画活動 |
| 期日 | 平成29年度 |
| 場所 | 県内6支部「健康まつり」開催地 |
| 活動内容・参加者等 | 健康まつりに参加した地域の一般市民を対象にした健康相談による食育推進活動の実施。 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと | 看護協会会員が県内各地で県民の健康づくりのために健康相談等を開催し、看護の知識・技術を提供することを継続的に実施している。 |

39 公益社団法人 青森県栄養士会

| | |
|---------------|--|
| 事業名 ① | 「無料栄養相談」あおもり栄養ケア・ステーション 1 |
| 期 日 | 平成 29 年度 |
| 活動内容・ 参加者等 | 県民を対象に、無料で栄養相談や食育相談を実施。 電話：毎週火曜日 10 時～12 時 HP 随時 |
| 備 考 | 平成 30 年度も実施予定 |
| 事業名 ② | 「親子料理学校」あおもり栄養ケア・ステーション 2 |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月 2 日 |
| 場 所 | 青森市金沢小学校 |
| 活動内容・ 参加者等 | 青森市中央卸売市場からの依頼で、県産の食材を使った調理実習。 |
| 事業名 ③ | 減塩プロジェクト 1 「減塩親子料理教室」 |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月 15 日、11 月 18 日 |
| 場 所 | 大鰐町福祉センター、アピオあおもり |
| 活動内容・ 参加者等 | 短命県返上の自主事業「減塩プロジェクト」の一つで、減塩は子供のころから ということで、親子対象の料理教室。大鰐 5 組 11 名、青森 3 組 8 名の参加。 |
| 事業名 ④ | 減塩プロジェクト 2 (八戸市環境・健康フェスタ 2017) |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月 1 日 |
| 場 所 | 八戸市公会堂 |
| 活動内容・ 参加者等 | 減塩の大切さ、0.7%みそ汁の試飲 638 名、野菜摂取、適正体重についての栄養 相談 (158 名) を行った。 |
| 事業名 ⑤ | 減塩プロジェクト 3 (横内市民センターまつり) |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月 28 日 |
| 場 所 | 横内市民センター |
| 活動内容・ 参加者等 | 減塩みそ汁の試飲 87 名、栄養相談 11 名 |
| 事業名 ⑥ | 減塩プロジェクト 4 (十和田南公民館まつり) |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月 22 日 |
| 場 所 | 十和田市南公民館 |
| 活動内容・ 参加者等 | 「生活習慣病予防」 ・栄養相談、「減塩エーヨー!!」アンケートの実施 ・野菜 350g、だしのチカラ ・減塩みそ汁試飲 参加者数 120 名 |
| 事業名 ⑦ | 減塩プロジェクト 5 (黒石市健康づくり市民のつどい) |
| 期 日 | 平成 29 年 11 月 18、19 日 |
| 場 所 | スポカルイン黒石 |
| 活動内容・ 参加者等 | 「栄養相談コーナー」(2 日間で 500 名) 健康あおもり 21 の推進 |

| | |
|-------------------------|--|
| | 減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、栄養クイズ、アンケート 栄養相談 60 名 |
| 事業名 ⑧ | 減塩プロジェクト6 (今日からおいしく減塩 栄養!!) |
| 期 日 | 平成 29 年 11 月 18、19 日 |
| 場 所 | 鶴 田町 鶴遊館 |
| 活動内容・ 参加者等 | 「体験コーナー」0.7%みそ汁の試飲 「減塩アンケート」「栄養相談」 18 日 95 名、19 日 110 名参加 |
| 事業名 ⑨ | 減塩プロジェクト7 (東北町健康福祉まつり) |
| 期 日 | 平成 29 年 11 月 4、5 日 |
| 場 所 | 東北町保健センター |
| 活動内容・ 参加者等 | 栄養相談 参加者数 200 名 |
| 事業名 ⑩ | 減塩プロジェクト8 (あおもり健康寿命延伸フェア 2017) |
| 期 日 | 平成 29 年 11 月 22 日 |
| 場 所 | アウガ |
| 活動内容・ 参加者等 | 栄養相談 21 名、糖尿病の食事の相談が多かった。 減塩みそ汁体験 121 名 |
| 事業名 ⑪ | 減塩プロジェクト9 (弘前市健康まつり) |
| 期 日 | 平成 29 年 7 月 9 日 |
| 場 所 | ヒロロ |
| 活動内容・ 参加者等 | 「栄養相談コーナー」500 名 減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、減塩クイズ、減塩みそ汁試飲 (433 名)、 栄養相談 (15 件) |
| 事業名 ⑫ | 「ウェルネスセミナー」 あおもり栄養ケア・ステーション 3 |
| 期 日 | 平成 29 年 2 月 1 日～12 月 8 日 |
| 場 所 | 県内 6 カ所 |
| 活動内容・ 参加者等 | 健康寿命アップのための健康を目指した食事やバランス食等の講演、ビデオな ど |
| 取組の具体的 手法や特徴的 なこと | 大塚製薬からの委託事業 |
| 事業名 ⑬ | 「アスリートプログラム」 あおもり栄養ケア・ステーション 4 |
| 期 日 | 平成 29 年度 |
| 場 所 | マエダアリーナ (青森市) |
| 活動内容・ 参加者等 | 中・高校・一般のスポーツ選手を対象に食事栄養診断と栄養相談 卓球、バドミントン、自転車等各種目、今年度 19 回 |
| 取組の具体的 手法や特徴的 なこと | 青森県スポーツ科学センターからの委託事業 |

40 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会

| 活 動 内 容 | |
|--|---|
| <p>1 福祉専門職に対する研修会等において、快適な食生活の方法、栄養管理等についての情報提供を行うとともに、食育の啓発を実施している。</p> <p>2 住民向けの介護講座等にて、家庭介護の充実を図る一方で、食事の楽しさ・大切さを伝えることで食育の啓発を図っている。</p> | |
| 取組の具体的手法や特徴的なこと | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉専門職向けの研修事業に食育の視点を加える。 ・家庭の介護力の向上の一助として、自助具等の普及を図る研修等を実施し、食事の楽しさ・大切さを伝える。 |
| 今後取り組みたい事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに食事を通じた居場所を提供する「子ども食堂」が県内で広がるような取組を実施したいと考えている。2月16日に「子ども食堂開設セミナー」をプレ事業として実施予定。 |

41 一般社団法人 青森県保育連合会

| | |
|-----------------|---|
| 事業名 ① | 給食部会の開催 |
| 期 日 | 平成29年度：4回開催 |
| 場 所 | 青森市 県民福祉プラザ |
| 活動内容・参加者等 | <p>部会員 16名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各支部から選出された部会員で「給食部会」を設置。 日常の給食業務等の課題について話し合う |
| 事業名 ② | 平成29年度 給食研修会 |
| 期 日 | 平成29年11月7日（火） |
| 場 所 | 青森市 ホテル青森 |
| 活動内容・参加者等 | <p>参加者：333名</p> <p>講 演：「子どものアレルギー疾患」 青森病院 医師 黒沼忠由樹氏</p> <p>「幼児期の肥満予防は、その子の人生を変えるかもしれない」 埼玉医科大学 小児科 教授 菊池透氏</p> |
| 取組の具体的手法や特徴的なこと | 県内保育所等・児童館の給食関係者の資質及び専門性等の向上を目指し開催。 |

4 2 国立大学法人弘前大学 農学生命科学部

| | |
|---------------|---|
| 事業名 ① | 公開講座「リンゴを科学する」 |
| 期 日 | 平成 29 年 12 月 9 日 |
| 場 所 | 平川市生涯学習センター |
| 活動内容・ 参加者等 | りんごの育種の現状、品種についての講演 |
| 事業名 ② | 親子体験学習 |
| 期 日 | 平成 29 年 5 月 27 日、6 月 17 日、9 月 23 日、10 月 7 日、10 月 28 日 |
| 場 所 | 金木農場、藤崎農場 |
| 活動内容・ 参加者等 | 羊の毛刈、田植、リンゴの摘果、昆虫採集、じゃがいもの収穫、イネ刈りなど |
| 備 考 | 来年度も実施予定 |

4 3 学校法人 青森田中学園 青森中央短期大学

1 公開講座における食育活動の実践

| | |
|-------------------------|---|
| 事業名 ① | 健康づくり講座 |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月 21 日 |
| 場 所 | 本学 フリースペース及び体育館 |
| 活動内容・ 参加者等 | 一般の方を対象に生活習慣病予防の講話や家庭でできる簡単な体力づくりの講座を行った。 |
| 事業名 ② | ひなまつり親子クッキング |
| 期 日 | 平成 30 年 2 月 24 日 |
| 場 所 | 本学 調理実習室 |
| 活動内容・ 参加者等 | 園児・児童とその保護者を対象に、ひなまつりをテーマとした親子で楽しめる内容の調理実習を実施予定。 |
| 取組の具体的 手法や特徴的 なこと | 学科の特性を活かし、参加者が楽しみながら調理体験を行い、知識や技術の習得とともに講座を通して食への興味・関心をもつきっかけになるような内容としている。 |
| 備 考 | どちらの講座も大変好評であった。来年度以降も継続して活動を実施していきたい。 |

2 教員が依頼された出前講座など研修会での食育の普及活動を実施

| | |
|---------------|--|
| 事業名 ① | カラダは食べ物でできている～食習慣を見直し、食べて改善しよう～ |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月 3 日 |
| 場 所 | 青森森林管理署 |
| 活動内容・ 参加者等 | 一般の方を対象に正しい生活習慣や望ましい食生活を送るための工夫について講話を行った。 |
| 事業名 ② | カラダは食べ物でできている～食習慣を見直し、食べて改善しよう～ |
| 期 日 | 平成 29 年 10 月 26 日 |
| 場 所 | 青森中央高校 |

| | |
|------------------|--|
| 活動内容・参加者等 | 高校生を対象に正しい生活習慣や望ましい食生活を送るための工夫について講話を行った。 |
| 事業名 ③ | カラダは食べ物でできている |
| 期 日 | ①平成29年11月6日 ②平成30年1月26日 |
| 場 所 | ①青森県立第一高等養護学校 ②青森県立第二高等養護学校 |
| 活動内容・参加者等 | 宿舎で生活する生徒に対して五大栄養素を中心に望ましい食生活を送るための工夫について講話を行った。 |
| 事業名 ④ | 短命県返上に向けて一幼児期の食育ー |
| 期 日 | 平成29年8月1日 |
| 場 所 | つがる市松の館 |
| 活動内容・参加者等 | 保育施設に勤務する職員対象に幼児期から実践してほしい食教育について講話を行った。 |
| 事業名 ⑤ | 大間町健康づくり講座 |
| 期 日 | 平成29年12月5日 |
| 場 所 | 大間町立奥戸小学校 |
| 活動内容・参加者等 | 1、2年生の児童を対象に正しい間食の摂り方と3、4年生を対象に消化・吸収・排便についての講話を行った。 |
| 事業名 ⑥ | 青森中央短期大学食育講座 |
| 期 日 場 所 | ①平成29年5月30日 中泊こども園 ②平成29年6月27日 石川こども園 ③平成29年6月27日 鶴田町保育連絡協議会 ④平成29年7月18日 西中野目保育所 ⑤平成29年9月6日 野辺地町食生活改善推進委員会 ⑥平成29年9月20日 富野こども園 ⑦平成29年9月26日 石川こども園 ⑧平成29年10月6日 青森県保育連合会西北五支部給食部会 ⑨平成29年10月10日 七戸町保育研究会給食部会 ⑩平成29年10月17日 豊ヶ岡保育所 ⑪平成29年10月24日 中泊こども園 ⑫平成29年10月28日 すずらん保育園 ⑬平成29年12月3日 青森県消費者協会 ⑭平成29年12月15日 城南こども園子育て支援センター ⑮平成29年12月16日 平賀保育園 ⑯平成29年12月26日 石川こども園 ⑰平成30年1月19日 碓ヶ関中央こども園 ⑱平成30年2月22日 城北こども園 |
| 活動内容・参加者等 | 園児、保護者、親子などに対して望ましい食習慣や食生活について講話や実習を行った。 |
| 取組の具体的な手法や特徴的なこと | 学科の専門性を活かしながら、参加者が興味を引くテーマを設定し「食」について学ぶことができる内容としている。また、食育講座では依頼先のニーズに沿った内容を実施している。 |

3 その他

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------------------|----|------------|----|--------|----|----|----|
| 事業名 ① | あおもり食育サポーター事務局による食育活動 | | | | | | | | |
| 活動内容・参加者等 | あおもり食育サポーターが幼児から一般まで幅広い世代を対象に青森県全域で食育活動を行った。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">幼稚園・保育園・子育て支援センター</td> <td style="text-align: right;">3件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">小学校・中学校・高校</td> <td style="text-align: right;">2件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">一般・その他</td> <td style="text-align: right;">1件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">6件</td> </tr> </table> (平成30年2月3日現在依頼分) | 幼稚園・保育園・子育て支援センター | 3件 | 小学校・中学校・高校 | 2件 | 一般・その他 | 1件 | 合計 | 6件 |
| 幼稚園・保育園・子育て支援センター | 3件 | | | | | | | | |
| 小学校・中学校・高校 | 2件 | | | | | | | | |
| 一般・その他 | 1件 | | | | | | | | |
| 合計 | 6件 | | | | | | | | |
| 事業名 ② | 翔麗祭 | | | | | | | | |
| 期 日 | 平成29年9月16日～17日 | | | | | | | | |
| 場 所 | 青森中央短期大学 1号館1階 | | | | | | | | |
| 活動内容・参加者等 | 本学学園祭において食育教材の展示や食育クイズなどを実施した。 | | | | | | | | |
| 事業名 ③ | 産学官共同による「あおもりのうまいもの弁当」考案 | | | | | | | | |
| 期 日 | 平成29年5月～9月上旬 | | | | | | | | |
| 場 所 | 青森県内 | | | | | | | | |
| 活動内容・参加者等 | 本学学生が青森県産品を使用した地産地消弁当を考案し、その販売を企業が行った。 | | | | | | | | |
| 事業名 ④ | 学生による食育講座 | | | | | | | | |
| 期 日 | 平成29年10月1日 | | | | | | | | |
| 場 所 | 青森県総合社会教育センター | | | | | | | | |
| 活動内容・参加者等 | 生涯学習フェアで朝ごはんの大切さについて食物栄養学科及び幼児保育学科の学生が食育活動を行った。 | | | | | | | | |
| 事業名 ⑤ | 田子小学校学学校保健員会 | | | | | | | | |
| 期 日 | 平成29年11月26日 | | | | | | | | |
| 場 所 | 田子小学校 | | | | | | | | |
| 活動内容・参加者等 | 全校児童・教員・保護者を対象に食物栄養学科の学生が嘔むことについて幼児保育学科が朝ごはんについての食育活動を行った。 | | | | | | | | |

4 4 あおもり食育検定委員会（事務局：青森中央短期大学）

| | |
|-------------------------|--|
| 事業名 ① | 平成 29 年度あおもり食育検定 |
| 期 日 | 平成 29 年 6 月 18 日（日） |
| 場 所 | 主会場 青森中央短期大学（青森市）、東北女子大学（弘前市）、 八戸学院大学短期大学部（八戸市）、下北文化会館（むつ市） 団体会場 県立三本木農業高等学校（十和田市）、県立八戸西高等学校（八戸市）、 県立木造高等学校（つがる市）、県立青森南高等学校（青森市）、県立弘前実 業高等学校（弘前市）、県立十和田西高等学校（十和田市）、東北女子短期大 学（弘前市）、弘果弘前中央青果(株)（弘前市）、青森魚類(株)（青森市）、(株)佐 藤長（弘前市） |
| 活動内容・ 参加者等 | 会場：県内 4 会場（主会場）及び 9 団体会場（準会場）で実施した。 状況：391 名が受検し、307 名が合格した。 |
| 取組の具体的 手法や特徴的 なこと | 同一団体で 10 名以上の受検者に対しては、団体受検（準会場）を推奨している。 高等学校及び小売業等で団体受験の利用が増加した。 |
| 備 考 | 平成 30 年度も県内 4 会場で実施する。平成 30 年度のあおもり食育検定につい ては、3 月を目途にホームページから受験要項とテキストをダウンロードできるよ うにする。 |

4 5 株式会社 東奥日報社

| 活 動 内 容 |
|--|
| 食と健康は重要なテーマであり、これまでも「短命県」の課題を探る連載や県内の食の魅力を 紹介する企画等を展開してきた。本年度の例としては 2017 年 8 月から、医師で作家の鎌田實氏に 月 1 回連載の寄稿を依頼。短命県だった長野県が、塩分摂取の低減などで長寿日本一になる上で 大きな役割を果たした同氏から、連載を通じて様々な提言を頂いている。今後も地元の報道機関 として、紙面を通して食育の推進に協力していきたい。 |